

戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭

神戸アートビレッジセンター 地下1階 KAVCシアター

今から80年前の1941年（昭和16年）12月8日に「太平洋戦争」は始まりました。満州事変から日中戦争へと戦火を拡大していった日本は、真珠湾に奇襲攻撃をかけ米英などに宣戦。広大な太平洋諸地域を占領しました。しかしミッドウェー、ガダルカナルの敗戦を機に、連合軍の反攻を受け、サイパン陥落、レイテ・沖縄での相次ぐ敗戦。本土空襲、広島・長崎への原爆投下、終戦に追い込まれるまで、内外各地で多くの尊い命が犠牲となりました。その後も旧満州などからの引揚げ、シベリア抑留と戦争の被害は続きました。この度、一般社団法人「昭和 cultura アーカイブス」は、「太平洋戦争」開戦から80年を節目に、改めて戦争の史実に触れ、平和の尊さを考える映画祭を開催します。

12/4 (土) ① 13:00~

九回出撃を命じられ 生還した特攻兵の“遺言”

映画『ラストメッセージ』

“不死身の特攻兵” 佐々木友次伍長

上映後、講演付き

講師・上松道夫 監督

「特攻帰還兵が語る理不尽な真実」



陸軍初の特攻隊「万葉隊」

12/5 (日) ② 11:00~

戦争、シベリア抑留、弟の被爆死…
画家・四國五郎の原点がここに

映像作品『時を超えた兄弟の対話』

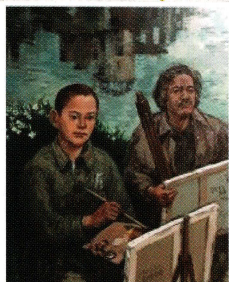
ヒロシマを描き続けた四國五郎と
死の床でつづった直登の日記

この作品は2020年 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の企画展にて上映された映像です。

上映後、講演付き

講師・四國 光 さん
(四國五郎 長男)

「反戦詩画人・
四國五郎が伝える
戦争の記憶」



「写生する兄弟」1996年



「弟への鎮魂歌 (抄)」1971年

③ 15:00~

原爆で全滅した移動演劇桜隊の悲劇
映画『さくら隊散る』



上映後、講演付き

講師・青田いずみさん
(移動演劇桜隊平和祈念会・事務局長)

「移動演劇桜隊を語り継ぐ
原爆忌の会について」



① 『ラストメッセージ』
“不死身の特攻兵” 佐々木友次伍長



12月4日 (土)

12:30～開場 13:00～上映 (98分)

14:45～上松道夫監督による講演 (約60分)

太平洋戦争末期、上官の命令が絶対とされた戦時下で「死んで来い」と9回“特攻出撃”を命じられ、9回とも生還した兵士がいた。佐々木友次伍長21歳。陸軍最初の特攻隊「万葉隊」操縦士に抜擢され、二度も敵艦船に「突入」「戦死」と報じられたが奇跡的に帰還した。「十死零生」の特攻命令から、彼はなぜ生還できたのか？佐々木友次氏が死の半年前(2015年)病床で我々のカメラに、自らの特攻体験と思いの全てを語った…まさに「遺言」ともいえるインタビュー映像の全容を太平洋戦争開戦80年を期に今回特別上映する。

上松 道夫
UEMATSU MICHIO



② 『時を超えた兄弟の対話』

ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記



12月5日 (日)

10:30～開場 11:00～上映 (30分)

11:40～四國 光さんによる講演 (約90分)

画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに捧げた四國五郎(1924-2014)。そのきっかけは最愛の弟・直登(1927-1945)が原爆により18歳で短い生涯を閉じたことだった。「死んだ人々に代わって画を描こう。戦争反対・核兵器廃絶を。芸術になろうがなるまいが…」弟の死が兄にこう決意させた。被爆当日から亡くなるまで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の作品を紹介しながら、時を超えた二人の対話が再現される。昨年、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の企画展で上映され、朗読を担当した女優・木内みどりの遺作となった映像作品。

四國 光
SHIKOKU HIKARU



③ 『さくら隊散る』



12月5日 (日)

14:30～開場 15:00～上映 (112分)

17:00～青田いずみさんによる講演 (約60分)

東京・目黒の天恩山五百羅漢寺には「移動演劇さくら隊原爆殉難碑」があり、毎年8月6日の原爆忌には故人と縁のあった人々が集まって追悼を行っている。桜隊の前身は昭和17年に誕生した苦楽座で、20年に櫻隊と改名し、演劇活動を続けていた。隊長は丸山定夫、事務局長は植村浩吉、隊員に池田生二、高山象三、園井恵子、仲みどり、島木つや子、羽原京子、森下彰子、小宮喜代、笠網子がいた。生涯、原爆にこだわり続けた映画監督・新藤兼人が広島で被爆した演劇集団の悲劇を、貴重な証言などを集めて再現したドキュメンタリー。

青田 いずみ
AOTA IZUMI



1948年生まれ。1972年、テレビ朝日入社。「ニュースステーション」「ザ・スクープ」など数々の報道番組を制作。フィリピン・アキノ氏暗殺事件(83年)、湾岸戦争“油まみれの水鳥”(91年)報道などで国際的スクープを放つ。「報道ステーション」の初代エグゼクティブ・プロデューサー。取締役編成制作局長、報道担当取締役などを歴任。テレビ朝日をリタイア後、フリーランス・プロデューサーとして制作活動を継続。

1956年広島市生まれ。四國五郎長男。早稲田大学第一文学部卒業。(株)電通にてマーケティング局長、(株)電通コンサルティング取締役兼務等歴任。加えて、水中撮影のプロデュース作業、スポーツ作業などに携わる。職業潜士。NPO法人吹田フットボールネットワーク設立代表。定年退職した現在は、父・四國五郎が残した膨大な作品群を活用し、展覧会や出版等を通じて、戦争の記憶を次世代に継承する活動に従事。

埼玉県生まれ。桐朋学園短期大学演劇専攻科卒業。劇団文化座に入団し、全国公演に携わる。退団後、「劇団ぐるーぷ・ふらいばん」を結成。全国の親子劇場、子ども劇場、保育園、幼稚園をまわる。解散後、客演・朗読・司会・イベント、舞台コーディネーターとして活動。演技、所作指導をしている。日本舞踊・林流千永派の師範名取「林 千泉」としても活動。20年以上に渡り続けた桜隊原爆忌の会に携わり、現在、移動演劇桜隊 平和祈念会事務局を務める。

2021年12月4日 土 5日 日

神戸アートビレッジセンター地下1階シアター

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5丁目3番14号

ご予約・アクセス

ご予約はメール、映画祭HP予約フォーム、電話にて承ります。

■ メール showa.archives@gmail.com

■ 映画祭HP <http://www.showabunka.org/>

■ 電話 090-7478-7507

(主催者/昭和文化アーカイブス 御手洗志帆)

上記いずれかに 1) 氏名 2) 人数 3) 上映希望作品 (複数可)
4) 連絡先をお知らせください。

料金は当日受付にてお支払いいただきます。(定員60名)

前予約: 1000円 当日: 1200円 (当日券は定員に余裕がある場合のみ販売)



神戸高速「新開地駅」東8番出口より、徒歩約5分
JR「神戸駅」北出口より、徒歩約10分
神戸市営地下鉄「湊川公園駅」より、徒歩約15分